

熊本の病院・臨床研修病院、新病院長の紹介

熊本労災病院

病院長 松岡 雅 雄



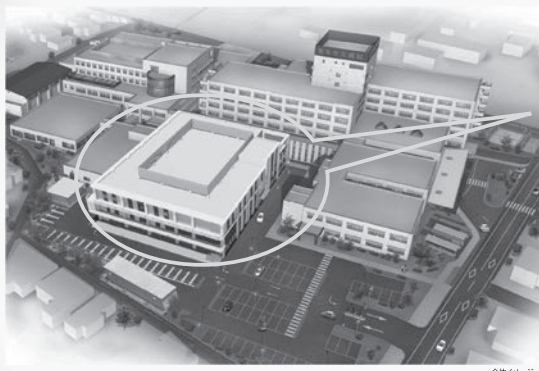
令和6年4月1日付けで熊本労災病院の病院長に就任しました松岡雅雄です。よろしくお願い申し上げます。

私は1982年に熊本大学医学部を卒業し、第二内科に入局しました。高月先生が京都大学から来られて最初の入局です。高月先生は成人T細胞白血病を発見され、その原因ウイルスがレトロウイルスであることがGalloらによって明らかとなり、一挙に研究が進んで行った時期でした。しかし、ATL患者の予後は大変悪く無力感を感じました。この病気の本質を明らかにしたいと考え大学院へ進学して研究を始めました。その後、留学を経て1992年に助手として診療と研究に当たり、高月先生が退職される時は医局長を務めました。1999年に京都大学ウイルス研究所・教授として赴任し2016年に熊本大学医学部血液・膠原病・感染症内科学講座の教授として戻ってきました。2023年3月に退職してシニア教授として1年間働き2024年4月より熊本労災病院に病院長として着任しています。

熊本労災病院に来て、まだ2ヶ月半ですが、多くの

診療科が協力して質の高い医療を実践していると感じています。6月に病院機能評価がありましたが、サーベイヤーの皆さんからも高く評価して頂きました。労災病院は臨床研修医に人気が高く多くの応募があります。皆、優秀で活気に満ちて研修しています。着任後、県南の医療機関を訪問して意見交換しましたが、医師の高齢化と不足を肌で感じています。今後更に進むことが確実な高齢化、人口減少に対応するためには広域での医療機関の連携・協力が不可欠であると確信しました。また、熊本県での臨床研修医、専攻医の減少に極めて強い危機感を覚えています。この難局を乗り切るには個々の医療機関の対応では難しく熊本県全体で連携・協力体制を至急強化する必要があります。肥後医有振興会にとっても、若い医師の育成はその名前が示すように最も大切なミッションだと思います。若い医師に魅力的な研修システム、参加したい専攻医育成プログラムをアピールして次世代の医師を育成しましょう。

熊本労災病院 新棟建設のお知らせ



全体イメージ



新棟イメージ

新棟では、高度医療に対応する手術室・ICU、リハビリ部門、災害時における地域のみなさんの避難受け入れスペースを設置し、更に地域に貢献してまいります。

当院では、高度医療の拠点、また大規模災害時における緊急避難・診療拠点として、新棟(高度医療・災害対応棟)を建設します。(令和7年度完成予定)



独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院
Kumamoto Rosai Hospital